

『列島災害化時代を迎え、東北に根付く“後方支援”の文化に学ぶ～森里海を紡ぎ直す今日的意義～』

特別講演 講師紹介と講演概要

田中 克氏

(写真 右端)

1943年滋賀県生まれ。1971年京都大学農学研究科博士課程修了。西海区水産研究所ならびに京都大学における稚魚研究を通じて森林域と海域の不可分のつながりに着目。森と海をつなぐとその再生を目指す統合学問「森里海連環学」を2003年に京都大学フィールド科学教育研究センターの立ち上げとともに提唱し、社会運動「森は海の恋人」との協同を進める。森と海をつなぐ干潟や湿地の再生に有明海と三陸沿岸域で取り組む。

著書に「森里海連環学への道」(2008年)、「増補改訂版森里海連環学」(2011年)、「森里海連環による有明海再生への道」(2014年)、「森里海を結ぶ(1)いのちのふるさと海と生きる」(2017年)、「森里海を結ぶ(2)女性が拓くいのちのふるさと海と生きる未来」(2017年)他。京都大学名誉教授・舞根森里海研究所長・NPO法人森は海の恋人理事。



第30回森は海の恋人 植樹祭 (左端は島山重篤さん)



東北の名峰五葉山から流れる気仙川が後方支援の舞台



「太平洋銀行」の利子で生きる三陸漁師の逞しい笑顔



講演概要

東日本大震災から8年近くが経過した。震災の教訓が生かされない中、日本列島も甚大な災害が多発・日常化する時代を迎えた。今一度、日本の“ふるさと”とも言える東北に根付く自然とともに生きる暮らしや文化に学び直す必要がある。震災復興の中で明らかになった東北太平洋沿岸域の森里海のつながりや後方支援の文化を、世界が模索する持続可能社会実現の基盤として見つめ直す。



漁業の町大槌町の湾奥にできた巨大防潮堤



日本のふるさと遠野・住田町には文化資本が根付く

有明海～諫早湾  
1997年8月  
潮受け堤防の設置  
により干上がった  
干潟を埋め尽くす  
ハイガイの死骸  
(二枚貝)

